

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
京都府医師会 看護専門学校	平成12年3月9日	森 洋 一	〒607-8169 京都市山科区柳辻西浦町1番13 (電話) 075-502-9500			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
一般社団法人 京都府医師会	昭和22年11月1日	会 長 森 洋 一	〒604-8585 京都市中京区西ノ京東栞尾町6 (電話) 075-354-6101			
目 的	看護師として必要な知識と技術を習得させるとともに、社会に貢献し得る有能な人材を養成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	看護専門課程	看護学科	3年(昼)	3,060時間 (103単位)	平成15年文部科学 省告示第14号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	2,025時間 (80単位)	単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1,035時間 (23単位)	単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
240人	255人	14人	76人	90人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について ・認定試験の成績で100点満点の すべて60点以上 ・所定時間数の2/3以上の出席	
長期休み	■学年始め：4月 ■夏季：7月下旬～8月下旬 ■冬季：12月下旬～1月上旬 ■学年末：3月下旬～4月上旬			卒業・進級条件	・科目の単位を全て修得 ・出席すべき日数の2/3以上出席	
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 都度担任が対応し状況により学生 カウンセラー等による対応を実施。			課外活動	■課外活動の種類 バレーボール、新入生歓迎会、 学校祭等 ■サークル活動(有・無)	
就職等の状況	■主な就職先、業界等 病院等医療業界 ■就職率 ^{※1} 100% ■卒業者に占める就職者の割合94.7% ■その他(任意) (平成27年度卒業者に関する平成28年4月時点の 情報)			主な資格・ 検定	・専門士(医療専門課程) ・看護師国家試験受験資格	

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 11名 ■中退率 4.2%</p> <p>平成27年4月1日在学者 259名 (平成27年4月入学者を含む) 平成28年3月31日在学者 248名 (平成28年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 ・進路変更、学力不足</p> <p>■中退防止のための取組 ・学生カウンセラー、担任制による個別面接</p>
<p>ホームページ</p>	<p>URL: http://www.kyoikan.kyoto.med.or.jp/an.html</p>

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

医療の進歩に伴いその変化に対応できるよう、実習施設を中心とした企業と定期的な会議をもち、意見交換を行い連携を密にはかるとともに、実習時における学生の評価を的確に行えるようする。
また、社会の要請・地域住民のニーズに対応できる看護専門職業人として必要な知識・技術・態度が提供できるよう教育内容・方法の改善を行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年5月1日現在

名 前	所 属
森 洋 一	京都府医師会看護専門学校 学 校 長
松 井 道 宣	京都府医師会看護専門学校 副 校 長
神 田 益 太 郎	京都府医師会看護専門学校 副 校 長
東 義 人	医仁会武田総合病院尿路結石治療センター センター長
川 勝 秀 一	川勝小児科内科医院 院 長
西 村 秀 夫	西村耳鼻咽喉科医院 院 長
井 上 雅 史	井 上 医 院 院 長
奥 山 幸 子	京都府医師会看護専門学校 副 校 長
山 村 康 夫	京都府医師会看護専門学校 教 育 顧 問
加 悦 浩 美	京都府医師会看護専門学校 教 務 主 任
秋 山 寛 子	京都府医師会看護専門学校 教 務 主 任
瀧 見 美 佐 江	京都府医師会看護専門学校 教 務 主 任
岡 田 弘 美	京都府医師会看護専門学校 教 務 主 任
駒 井 久 二 雄	京都府医師会看護専門学校 事 務 長

(開催日時)

第1回 平成27年6月10日 14:30～16:00

第2回 平成28年3月 9日 14:00～15:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

学校で学んだ理論・方法を統合し、現場の医療機関や企業と連携を図りながら実際の看護場面で応用展開することにより、看護の基礎的能力を習得するとともに心豊かな看護師を育成する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
基礎看護学実習Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象を身体的・心理的・社会的側面からとらえることができる 2. 対象の基本的欲求とその充足状況を知り、看護の必要性を考えることができる 3. 看護の必要性に基づいて、対象に適した援助を考えることができる 4. 日常生活の援助技術を、基本に基づいて実施することができる 5. 日常生活の援助を実施し、患者の反応や効果を捉えて評価することができる 	ホテルグランヴィア京都 ホテル日航プリンセス ホテルブライトンシティ山科 積水ハウス総合住宅研究所「納得弘法」 京都大学医学部附属病院 独立行政法人国立病院機構宇多野病院
基礎看護学実習Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本技術、日常生活の援助技術を通して対象を把握することができる 2. 対象の看護の必要性が理解でき、看護上の問題を抽出することができる 3. 看護上の問題を解決するための看護計画を立案する 	京都大学医学部附属病院 独立行政法人国立病院機構宇多野病院

	<p>ことができる</p> <p>4. 看護計画に沿った看護を実施することができる</p> <p>5. 実施した看護を評価することができる</p>	
精神看護学実習	<p>1. 対象の病態像を理解することができる</p> <p>2. 対象の精神状態を理解し、生活にどのように影響しているかを明らかにすることができる</p> <p>3. 対象の健康状態に応じた日常生活援助ができる</p> <p>4. 精神看護に関わる法律、社会資源の活用について理解できる</p> <p>5. 精神医療の特殊性と看護の役割が理解できる</p> <p>6. 事故の対象への関わりを通し、対人関係のあり方について考えることができる</p>	<p>医療法人稲門会いわくら病院</p> <p>医療法人三幸会 第二北山病院</p> <p>京都府立洛南病院</p>
成人看護学実習Ⅰ	<p>1. 疾患を持つ対象を総合的に理解できる</p> <p>2. 対象の情報を看護の視点で分析し、看護上の問題を抽出できる</p> <p>3. 看護上の問題を解決するための、必要な計画が立案できる</p> <p>4. 対象のニーズに応じた援助を実践し、評価できる</p> <p>5. 評価に基づき計画の修正ができる</p>	<p>京都大学医学部附属病院</p> <p>独立行政法人国立病院機構宇多野病院</p> <p>医療法人同仁会（社団）京都九条病院</p>
成人看護学実習Ⅱ	<p>1. 慢性疾患を持つ対象の身体機能の変化が理解できる</p> <p>2. 生涯セルフコントロールを必要とする対象とその家族の心理的・社会的問題が理解できる</p> <p>3. 主な症状を持つ対象、および治療・検査を受ける対象への援助ができる</p> <p>4. 対象のセルフケアにおける問題に応じた看護方法が考えられる</p> <p>5. 社会資源の活用や継続看護の必要性が理解できる</p>	<p>京都大学医学部附属病院</p> <p>独立行政法人国立病院機構宇多野病院</p> <p>独立行政法人地域医療機能推進機構</p> <p>京都鞍馬口医療センター</p>
成人看護学実習Ⅲ	<p>1. 成人期の手術療法を受ける対象が理解できる</p> <p>2. 麻酔・手術侵襲を理解し、術前・術後の経過に応じた看護問題を明確にできる</p> <p>3. 手術を受ける対象の心理状態を理解し、精神的援助ができる</p>	<p>京都大学医学部附属病院</p> <p>独立行政法人国立病院機構宇多野病院</p> <p>社会福祉法人恩賜財団済生会京都府病院</p> <p>独立行政法人地域医療機能推進機構</p> <p>京都鞍馬口医療センター</p>
老年看護学実習Ⅰ	<p>1. 施設の概要が理解できる</p> <p>2. 老年期の生理的・心理的・社会的変化が理解できる</p> <p>3. 高齢者にとって望ましい環境について学ぶ事が出来る</p> <p>4. 高齢者が健康に生活する意義が理解できる</p> <p>5. 老年期の特徴を踏まえた基本的な援助の実際を学ぶ事が出来る</p> <p>6. 施設における老年看護の役割が理解できる</p> <p>7. 高齢者と接する中で自らの老年観を養うことができる</p>	<p>京都市上京老人福祉センター</p> <p>京都市西京老人福祉センター</p> <p>京都市山科中央老人福祉センター</p> <p>京都市伏見老人福祉センター</p> <p>京都市久世西老人福祉センター</p> <p>京都市洛西老人福祉センター</p> <p>京都市左京老人福祉センター</p> <p>京都市醍醐老人福祉センター</p> <p>社会福祉法人宇治病院</p> <p>がくさい病院・京都老人ホーム</p> <p>介護老人保健施設がくさい・介護老人保健施設おおやけの里</p>
老年看護学実習Ⅱ	<p>1. 老年期にある対象とその家族が理解できる</p> <p>2. 老年期にある対象の疾患と生活障害が理解できる</p>	<p>京都大学医学部附属病院</p> <p>独立行政法人国立病院機構宇多野病</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 3. 対象の生活障害を改善するための援助の方法を学ぶ 4. 退院後の生活障害を予測し、社会資源の活用を考えられる 5. 高齢者の生命と人格を尊重する態度を身につける 	<p>院 独立行政法人国立病院機構南京都病院</p>
小児看護学実習 I	<ul style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長発達に応じた保育のあり方を学ぶ事ができる 2. 生活の中での遊びの占める位置の大きさを知り援助の方法を知る事ができる 3. 子どもの安全を守るための援助のついて学ぶ事ができる 4. 保育者としての働きかけを通して保育者の役割を学ぶ事ができる 	<p>社会福祉法人ゆうあい会石原保育園 小松谷保育園・柳辻保育園 西七条保育園・妙林苑保育園 法光院保育園 社会福祉法人塔南保育園</p>
小児看護学実習 II	<ul style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ小児の問題を成長発達と関連付けて理解できる 2. 小児の疾病の特性及び症状の現れ方を知り、健康障害に応じた看護が理解できる 3. 小児の発達段階に応じた日常生活の援助が実施できる 4. 小児を取り巻く家族の援助について考えることができる 	<p>京都大学医学部附属病院 独立行政法人国立病院機構南京都病院 京都第一赤十字病院</p>
母性看護学実習	<ul style="list-style-type: none"> 1. 妊・産・褥婦および新生児の理解を深める 2. 妊娠・分娩・産褥各期における心身の変化を理解する 3. 新生児の看護を通して新生児の生理を理解する 4. 妊娠・分娩・産褥各期における親子関係について理解を深める 5. 妊・産・褥婦と新生児に対する看護技術を習得する 6. 妊・産・褥婦および家族への適切な保健指導を学ぶ 7. 出産に立会い、産婦の苦痛の緩和や援助を通して生命誕生の神秘・生命の大切さについて考える 	<p>京都第一赤十字病院 社会福祉法人恩賜財団済生会京都府病院 松本クリニック・ハシイ産婦人科</p>
在宅看護論実習	<ul style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の特徴を理解することができる 2. 在宅で療養している人とその家族を理解することができる 3. 在宅で療養している人とその家族の療養上の問題を明確にし、助言の基に看護の方向性が考えられる 4. 在宅で療養している人とその家族に必要な看護方法が考えられる 5. 在宅看護における保健、医療、福祉の連携を知り、看護の果たす役割を考えることができる 6. 在宅看護における社会資源活用の実際について理解することができる 7. 専門職業人としての態度を学ぶ 	<p>医療法人総心会 訪問看護ステーションふれあい 訪問看護ステーションはくあい 宇治病院訪問看護ステーション 十条訪問看護ステーション 訪問看護ステーションいなほ 医療法人三幸会第二北山病院訪問看護ステーションからすましめい 医療法人三幸会 第二北山病院デイケアかりん 医療法人三幸会 ケアサポートセンター宝ヶ池 学際訪問看護ステーション 介護老人保健施設がくさい</p>
統合実習	<ul style="list-style-type: none"> 1. 病棟における看護管理の実際を学ぶ 2. チームアプローチを通してリーダーシップ、メンバーシップを学ぶ 3. 複数患者への看護を通して適切な看護マネジメント 	<p>京都大学医学部附属病院 独立行政法人国立病院機構宇野野病院</p>

を学ぶ
 4. 夜間の患者の状況を知り患者を総合的に理解できる
 5. 病棟チームでの看護実践を通して専門職としての意識を高める

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教員の資質の向上および専門分野の研修・学生への指導力向上のために、研修計画を策定し積極的に研修を受ける機会を設けるとともに、情報の共有の機会を設け報告会を行う。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 28 年 5 月 1 日現在

名 前	所 属
温 井 裕 二	京都市山科区 地元住民
松 本 旗 江	一般社団法人愛生会 山科病院 看護部長
永 田 美 恵	京都府医師会看護専門学校 保護者
坪 井 由加里	京都府医師会看護専門学校 卒業生

(事務局)

奥 山 幸 子	京都府医師会看護専門学校 副校長
山 村 康 夫	京都府医師会看護専門学校 教育顧問
駒 井 久二雄	京都府医師会看護専門学校 事務長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.kyoikan.kyoto.med.or.jp/an.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.kyoikan.kyoto.med.or.jp/an.html>

授業科目等の概要

(看護専門課程看護学科3年課程) 平成27年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			論理的思考	思考形式と法則を学び、論理的思考、文章表現を学ぶ 1. 基本的な文章表現ができる 2. 現象を多面的に捉えることができる 3. 批判的思考の発想方法を知る	1 年 次 前 期	30	1	○		
○			総合人間学	生物的、歴史的、そして心の問題を通して人間とは何かを考える 1. 生物の歴史を通し、生物としての人を知る 2. 生命の尊厳、自己決定について、生殖医療などの理解を通して「命」について考える	1 年 次 通 年	30	1	○		
○			文化環境学	私たちを取り巻く文化環境や社会制度に対する問題意識と科学的・論理的な思考力を養う 1. 社会のできごとに関心をもつことができる 2. 身近な問題をグローバルな視点で理解することができる 3. 身の回りの文化環境について考え、自分の意見を論理的に表現することができる	1 年 次 後 期	30	1	○		
○			情報科学Ⅰ	看護研究に生かす統計学の基礎知識を学ぶ 1. 情報科学の基礎について理解する 2. 統計の意義について理解する 3. 演習を通して統計の理解を深める	2 年 次 前 期	15	1	○		
○			情報科学Ⅱ	情報処理の基礎理論を学ぶ 1. 情報科学の基礎について理解する 2. 統計の意義について理解する 3. 演習を通して統計の理解を深める	2 年 次 通 年	30	1	○		
○			人間関係論	人間関係の法則や真理龍特徴についての基本的理解を通して、対人関係能力の向上を目指す 1. 自己を知ることとおし、他者理解ができることを理解する 2. 対人関係の本質を理解し、自己の人間関係について考える 3. 自己表現の方法を身につける	1 年 次 前 期	15	1	○		

○		生活科学	衣・食・住を含めた生活環境および、日本人の生活様式を学び、健康の側面から考えることができる 1. 生活者とそれを取り巻く環境との相互の関係が理解できる 2. 生活を科学的に解明し、また科学を生活に生かすことができる	1 年次 前期	30	1	○			
○		文学	文学作品を通して人間理解を深め、感性を磨く 1. 文学作品に触れることから始める 2. 文学作品にみる人間の生き方を通し、人間について考える	1 年次 後期	30	1	○			
○		教育学	教育が人間の成長や社会のあり方にどのような影響を与えているか、また生涯教育の必要性を学ぶ 1. 教育の目的と方法がわかる 2. 人間の本質と教育について考える 3. 看護と教育のかかわりについて考える	1 年次 後期	30	1	○			
○		英語 I	英語によるコミュニケーションの基礎能力を身につけると共に看護活動に役立つ英語を学ぶ 1. 基礎英語について学ぶ 2. 日常英会話について学び、コミュニケーション能力を高める 3. 医学・看護用語について学ぶ	1 年次 後期	30	1	○			
○		英語 II	英語によるコミュニケーションの基礎能力を身につけると共に看護活動に役立つ英語を学ぶ 1. 基礎英語について学ぶ 2. 日常英会話について学び、コミュニケーション能力を高める 3. 医学・看護用語について学ぶ	2 年次 前期	30	1	○			
○		保健体育 I	スポーツを通して健康生活を支える運動について考え、自己の体力の向上と集団生活の基礎を学ぶ 1. スポーツの意義について理解する 2. スポーツを通じて行動力・活動力を養う	1 年次 後期	30	1				○
○		保健体育 II	スポーツを通して健康生活を支える運動について考え、自己の体力の向上と集団生活の基礎を学ぶ 1. スポーツの意義について理解する 2. スポーツを通じて行動力・活動力を養う	2 年次 前期	30	1				○
○		解剖生理学 I	日常生活の視点から、人体がどのような構造をもっているかについて学ぶとともに疾病によって人体が受ける構造の変化を学ぶ 土台となる正常な人体の構造について学ぶ 1. 人体の基本となる細胞、骨格、筋の構造について理解する	1 年次 後期	30	1	○			

				2. 内分泌系、自律神経系の構造について理解する							
○			解剖生理学Ⅱ	日常生活の視点から、人体がどのような構造をもっているかについて学ぶとともに疾病によって人体が受ける構造の変化を学ぶ土台となる正常な人体の構造について学ぶ 1. 脳脊髄神経・伝導路・感覚器の構造について理解する 2. 生殖器の構造と受精、発生、成長、老化について理解する	1 年次 前期	30	1	○			
○			解剖生理学Ⅲ	1. 日常生活の視点から、人体がどのように機能しているかについて学ぶ 2. 疾病によって人体が受ける機能の変化を学ぶ土台となる正常な人体の機能について学ぶ	1 年次 前期	30	1	○			
○			解剖生理学Ⅳ	1. 日常生活の視点から、人体がどのように機能しているかについて学ぶ。 2. 疾病によって人体が受ける機能の変化を学ぶ土台となる正常な人体の機能について学ぶ	1 年次 前期	30	1	○			
○			生化学	正常な代謝と人体の機能について学ぶ 1. 日常生活の視点から、人体がどのように機能しているかについての理解をする 2. 疾病によって人体が受ける機能の変化を学ぶ土台となる、正常な代謝について理解する	1 年次 前期	30	1	○			
○			栄養学	生命科学を基本として、栄養と健康、栄養と疾病・障害との関係、さらに対象の栄養状態を適正化する方法を総合的に学ぶ 1. 栄養学の歴史を踏まえて、栄養の意義、そして看護の役割について述べることができる 2. 対象を健康の側面から観察し、日常生活の中で、食品・食べ物を用いての健康の保持、増進を図るための知識を身につける	1 年次 前期	15	1	○			
○			微生物学	微生物の人体に及ぼす影響及びその対応について学ぶ 1. 微生物に関する基礎的知識を理解する 2. 微生物が人体に及ぼす影響と予防するための対策を理解する	1 年次 前期	30	1	○			
○			病理学総論	疾病の原因や発生、病理の特徴及び形態・機能の病変の機序について学ぶ 1. 疾病の原因や発生について理解する 2. 病理の特徴及び形態・機能の病変の機序について理解する	1 年次 通年	30	1	○			

○		疾病と治療 I	呼吸器系・循環器系に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を学ぶ 1. 呼吸器系に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を理解する 2. 循環器系に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を理解する	1 年次 後期	30	1	○			
○		疾病と治療 II	消化器系・運動器系に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を学ぶ 1. 消化器系に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を理解する 2. 運動器系に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を理解する	1 年次 後期	30	1	○			
○		疾病と治療 III	自己免疫・アレルギー系・代謝・内分泌系・脳神経系・口腔・歯に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を学ぶ 1. 自己免疫・アレルギー系に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を理解する 2. 代謝・内分泌系に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を理解する 3. 脳神経系に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を理解する 4. 口腔・歯に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を理解する	2 年次 通年	30	1	○			
○		疾病と治療 IV	腎・尿路系・生殖器系・血液・リンパ系・感覚器系に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を学ぶ 1. 腎・尿路系・生殖器系に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を理解する 2. 血液・リンパ系に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を理解する 3. 感覚器系に疾患をもつ患者の身体的アセスメントができる基礎的知識を理解する	2 年次 通年	30	1	○			
○		薬理学	薬理作用及び薬物管理等、薬物の基礎的知識を学ぶ 1. 薬理作用及び薬物管理等、薬物の基礎的知識を理解する 2. 薬物が人体に及ぼす影響と適切な与薬について理解する	1 年次 後期	30	1	○			
○		治療学	1. 放射線療法に関する基礎的知識を理解する 2. 放射線療法時の患者ケアのポイントを理解する	2 年次 後期	30	2	○			

			<p>3. 救急医療の現状を理解し、救急医療に関する基礎的知識を理解する</p> <p>4. モデル人形を使った救急蘇生法が実施できる</p> <p>5. リハビリテーションに関する基礎的知識を理解する</p> <p>6. リハビリテーションを行う患者ケアのポイントを理解する</p>						
○		保健医療論	<p>保健・医療のかかえている問題の背景を学習し、医療従事者として社会に貢献する方向性を学ぶ</p> <p>1. 保健・医療のかかえている問題の背景を理解する</p> <p>2. 医療従事者として社会に貢献するための方向性を理解する</p>	1 年 次 後 期	30	2	○		
○		家族関係論	<p>患者や家族との援助関係や、専門職間の協同関係を展開する上で必要な人間関係に関する基礎理論を学ぶ</p> <p>1. 患者や家族へ援助する上で必要な人間関係理論を理解する</p> <p>2. 家族支援へアプローチするために必要な対応を理解する</p>	2 年 次 後 期	30	1	○		
○		社会福祉	<p>社会福祉の発達と理論、社会福祉制度について学習し、国民のニーズや資源の活用方法を学ぶ</p> <p>1. 社会保障制度の全体像を把握し、医療・看護領域の連携の重要性について理解を深める</p> <p>2. 看護の対象となる障害者や高齢者を支える制度を把握し、支援にかかわる制度を理解できる</p>	2 年 次 前 期	30	1	○		
○		関係法規	<p>保健師助産師看護師法を中心に、看護に必要な関係法規について学ぶ</p> <p>1. 看護者として、国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するための看護関係法令を理解する</p> <p>2. 各法令についての内容、看護との関係、メディアからの情報も関連づけて考える</p>	2 年 次 通 年	30	2	○		
○		看護学概論 I	<p>看護の歴史的背景、看護の定義、職業および学問としての看護の位置づけについて学び、看護の対象としての人間・健康・看護を探究するとともに、看護活動の場における看護の機能と役割について理解を深め、看護学を学ぶ意義を認識できる</p> <p>1. 看護の歴史的背景、看護の定義、職業および学問としての看護の位置づけについて学ぶ</p> <p>2. 看護の対象の人間について多面的に理解し、看護の目的を学ぶ</p> <p>3. 看護の視点から健康の概念について理</p>	1 年 次 前 期	30	1	○		

			<p>解できる</p> <p>4. 看護教育における多様な教育制度について学ぶ</p> <p>5. 保健医療サービスを提供するシステムと、その中で機能する看護について理解する</p> <p>6. 看護の機能と役割を認識し、法的面と実際面から具体的な看護業務について理解する</p> <p>7. 看護における現在の動向について学ぶ</p>							
○		看護学概論Ⅱ	<p>看護の変遷や看護理論の成立過程を理解し、代表的な看護理論の背景、看護の対象としての人間・環境・健康を探究するとともに、看護実践との関係を学び、看護学を学ぶ意義を認識する</p> <p>1. 看護の変遷や看護理論の成立過程を学ぶ</p> <p>2. 代表的な看護理論家の視点からみた人間関係の構造を学ぶ</p> <p>3. 看護の視点から健康の概念について理解する</p> <p>4. 看護理論と看護実践との結びつきを理解する</p> <p>5. 人の心の状態を察知する感性を養う</p>	2 年 次 通 年	45	2	○	△		
○		基礎看護学技術論Ⅰ	<p>1. 基礎看護学での看護技術の位置づけと概要について理解し、主体的学習の心構えを持つ</p> <p>2. 看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションの知識・技術・態度を習得する</p> <p>3. 看護における安全の重要性を理解し、感染防止・安全確保の技術を習得する</p> <p>4. 看護における観察・記録・報告の意義と重要性を学び、看護活動に必要なそれぞれの内容と方法を理解する</p>	1 年 次 前 期	30	1	○	△		
○		基礎看護学技術論Ⅱ	<p>1. 看護過程が組織的・系統的な看護提供のための、問題解決技術であることを認識する</p> <p>2. 看護過程の展開方法を理解する</p> <p>3. 看護におけるフィジカルアセスメントの具体的な方法・技術を身につける</p>	2 年 次 通 年	45	2	○	△		
○		基礎看護学技術論Ⅲ	<p>1. 人間にとっての環境を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と技術を習得する</p> <p>2. 健康状態のアセスメントの視点として、バイタルサイン測定が看護の基本技術であることを理解し、測定技術を習得する</p>	1 年 次 前 期	30	1	○	△		

○		基礎看護学 技術論Ⅳ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養と食事の意義を理解し、食事援助の技術を習得する 2. 排泄の意義と重要性について理解し、対象に応じた排泄の援助技術を習得する 3. 姿勢・体位の生理学的根拠とボディメカニクスの基本原理を理解し、対象者と看護者双方が安全・安楽で効果的・効率的にケアを実践する基本技術を身につける 4. 生体リズムの中の活動と休息を理解し、睡眠の意義と睡眠障害の援助方法を学ぶ 5. 患者が安楽を保つことの意義を理解し、苦痛の緩和・安楽確保の援助方法を学ぶ 	1 年 次 通 年	45	2	○	△		
○		基礎看護学 技術論Ⅴ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔の意義・重要性を理解し、身体を清潔に保つための専門知識が述べられる 2. 身体を清潔に保つための援助技術を実施できる 3. 衣服を用いることの意義を理解し、寝衣を清潔に保つための専門知識が述べられる 4. 寝衣を清潔に保つための援助技術を実施できる 5. 健康で快適な生活を送るために基本となる衣生活の意義を理解し、衣生活の援助技術を学ぶ 	1 年 次 通 年	30	1	○	△		
○		基礎看護学 技術論Ⅵ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・指導の意義を理解し、対象や場に応じた指導方法を理解する 2. 既習の基礎看護技術を基に、事例に応じた看護援助を考えて工夫することの必要性を学ぶ 3. 死にゆく人と周囲の人々への援助について学ぶ 	1 年 次 後 期	30	1	○	△		
○		基礎看護学 技術論Ⅶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸・循環を整えるための基礎知識と援助を理解する 2. 救命救急処置に関する基礎知識および心肺蘇生法の基本技術を理解する 3. 創傷管理の意義と褥瘡予防のために必要な援助を理解する 4. 与薬の意義を理解し、正しい与薬の方法を習得する 5. 検査の必要性を理解し、主な検査の正しい介助方法を習得する 6. 診察・検査・処置に応じた看護の役割と必要性を理解する 7. 与薬の意義を理解し、正しい与薬の方法を習得する 8. 感染防止に必要な知識を理解し、適切な感染予防の方法が実施できる 	1 年 次 後 期	45	2	○	△		

○		臨床看護総論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床看護総論の意義と特徴を理解し、健康障害を持つ患者と家族について理解し、援助する基本的知識を学ぶ 2. 継続看護の必要性を理解し、継続看護における看護の役割を学ぶ 3. 健康障害の経過で起こりうる看護上の問題と患者の特徴を理解し、事例を通して援助方法の基本について学ぶ 4. 健康障害に共通した主要症状の基礎的知識と、症状がおよぼす影響を理解し、事例を通して援助方法の基本について学ぶ 	1 年 次 後 期	45	2	○	△		
○		基礎看護学実習Ⅰ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象を身体的・心理的・社会的側面からとらえることができる 2. 対象の基本的欲求とその充足状況を知り、看護の必要性を考えることができる 3. 看護の必要性に基づいて、対象に適した援助を考えることができる 4. 日常生活の援助技術を、基本に基づいて実施することができる 5. 日常生活の援助を実施し、患者の反応や効果を捉えて評価することができる 	1 年 次 通 年	45	1				○
○		基礎看護学実習Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本技術、日常生活の援助技術を通して対象を把握することができる 2. 対象の看護の必要性が理解でき、看護上の問題を抽出することができる 3. 看護上の問題を解決するための看護計画を立案することができる 4. 看護計画に沿った看護を実施することができる 5. 実施した看護を評価することができる 	2 年 次 後 期	90	2				○
○		精神看護学概論	<p>精神保健医療・看護の変遷と現状、今後の課題を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の目的を理解する 2. 精神の健康の意義について理解する 3. 精神看護の変遷と精神看護の役割について理解する 4. 精神看護の対象となる人について理解する 	1 年 次 後 期	30	1	○			
○		精神看護学方法論Ⅰ	<p>精神障害の原因、症状、診断と治療を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医学の概要、発達を理解する 2. 精神障害の定義・原因・分類を理解する 3. 精神障害の症状と治療を理解する 	2 年 次 前 期	30	1	○			
○		精神看護学方法論Ⅱ	<p>健康障害をもつ対象へ行われる診察・検査・治療について理解し、看護の方法を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにみられる精神保健問題の特徴を理解する 2. 精神障害をもつ人の看護場面に必要な 	2 年 次 前 期	30	1	○			

			基本技術を理解する 3. 診察・検査・治療の看護場面に必要な基本技術を理解する 4. 精神障害をもつ人への看護を理解する 5. 精神障害をもつ人の社会復帰活動について理解する							
○		精神看護学 方法論Ⅲ	精神障害をもつ対象の事例を用いて看護過程の展開と看護に必要な自己洞察について学ぶ 1. 精神障害をもつ対象への看護過程の展開を理解する 2. 自己洞察の必要性を理解する 3. 自己洞察の方法を理解する	2 年 次 後 期	15	1	○			
○		精神看護学 実習	1. 対象の病態像を理解することができる 2. 対象の精神状態を理解し、生活にどのように影響しているかを明らかにすることができる 3. 対象の健康除隊に応じた日常生活援助ができる 4. 精神看護にかかわる法律、社会資源の活用について理解できる 5. 精神医療の特殊性と看護の役割が理解できる 6. 事故の対象への関わりを通し、対人関係のあり方について考えることができる	3 年 次	90	2			○	
○		成人看護学 概論	成人期にある対象の特徴および健康に影響する因子を理解し、健康を維持・増進するための看護を学ぶ 1. 成人の特徴、成人の生活と健康問題について理解する 2. 成人の特性や能力に応じた基本的なアプローチについて理解する 3. 成人の健康レベルに応じた看護について理解する	1 年 次 後 期	30	1	○			
○		成人看護学 方法論Ⅰ	さまざまな健康障害をもつ人へ適切な看護を行うために必要な基礎的知識を学ぶ 1. 循環機能に障害をもつ人への看護を理解する 2. 腎・泌尿器機能に障害をもつ人への看護を理解する 3. 造血機能に障害をもつ人への看護を理解する。基本的な文章表現ができる	1 年 次 後 期	30	1	○			
○		成人看護学 方法論Ⅱ	さまざまな健康障害をもつ人へ適切な看護を行うために必要な基礎的知識を学ぶ 1. 運動機能に障害をもつ人への看護を理解する 2. 認知機能・コミュニケーション障害をもつ人への看護を理解する	2 年 次 通 年	30	1	○			

○		成人看護学 方法論Ⅲ	さまざまな健康障害をもつ人へ適切な看護を行うために必要な基礎的知識を学ぶ 1. 呼吸機能障害をもつ人への看護を理解する 2. 代謝機能・内分泌機能障害をもつ人への看護を理解する 3. 生体防御機能障害をもつ人への看護を理解する	2 年 次 通 年	30	1	○			
○		成人看護学 方法論Ⅳ	さまざまな健康障害をもつ人へ適切な看護を行うために必要な基礎的知識を学ぶ 1. 栄養摂食障害をもつ人への看護を理解する 2. 女性生殖器機能障害をもつ人への看護を理解する 3. 感覚機能障害をもつ人への看護を理解する	2 年 次 後 期	30	1	○			
○		成人看護学 方法論Ⅴ	1. 紙上事例を用い、看護過程を展開することができる 2. 終末期の看護の実際のある場を見学するという体験を通して、看護専門職としての死生観を養う機会とする。	2 年 次 後 期	30	1	△	○		
○		成人看護学 実習Ⅰ	1. 疾患を持つ対象を総合的に理解できる 2. 対象の情報を看護の視点で分析し、看護上の問題を抽出できる 3. 看護上の問題を解決するための、必要な計画が立案できる 4. 対象のニーズに応じた援助を実践し、評価できる 5. 評価に基づき計画の修正ができる	2 年 次 後 期	90	2				○
○		成人看護学 実習Ⅱ	1. 慢性疾患を持つ対象の身体機能の変化が理解できる 2. 生涯セルフコントロールを必要とする対象とその家族の心理的・社会的問題が理解できる 3. 主な症状を持つ対象、および治療・検査を受ける対象への援助ができる 4. 対象のセルフケアにおける問題に応じた看護方法が考えられる 5. 社会資源の活用や継続看護の必要性が理解できる	3 年 次	90	2				○
○		成人看護学 実習Ⅲ	1. 成人期の手術療法を受ける対象が理解できる 2. 麻酔・手術侵襲を理解し、術前・術後の経過に応じた看護問題を明確にできる 3. 手術を受ける対象の心理状態を理解し、精神的援助ができる	3 年 次	90	2				○
○		老年看護学 概論	1. 老年期にある対象の身体的、心理的、社会的変化を知り、老年期のライフステージとその健康課題を理解する 2. 社会構造の変化や人口の高齢化に伴う	1 年 次 通	30	1	○			

			高齢者の保険・医療・福祉の問題を理解する 3. 高齢者が健康に生活する意義について理解し、老化に伴う保健活動と看護者の役割について学ぶ	年						
○		老年看護学 方法論Ⅰ	1. 高齢者の日常生活動作能力のアセスメントとADLを高めるためのケアを学ぶ 2. 高齢者の主要徴候に焦点をあてたアセスメントとケアの技法を学ぶ 3. 外科的治療時および薬物治療時のマネジメントとケアの技法を学ぶ 4. 高齢者を介護する家族の支援	2 年 次 前 期	30	1	○			
○		老年看護学 方法論Ⅱ	1. 障害・疾病を持つ高齢者への看護を学ぶ 2. 障害・疾病を持つ高齢者を理解し、看護の知識と技法を身につける	2 年 次 後 期	15	1	○	△		
○		老年看護学 方法論Ⅲ	1. 保健医療福祉における高齢者の看護を学ぶ 2. 事例を用いて老年看護過程の展開の基礎を学ぶ。	2 年 次 後 期	15	1	△	○		
○		老年看護学 実習Ⅰ	1. 施設の概要が理解できる 2. 老年期の生理的・心理的・社会的変化が理解できる 3. 老年者にとって望まし環境について学ぶ事が出来る 4. 老年者が健康に生活する意義が理解できる 5. 老年期の特徴を踏まえた基本的な援助の実際を学ぶ事が出来る 6. 施設における老年看護の役割が理解できる 7. 老年者と接する中で自らの老年観を養うことができる	2 年 次 後 期	90	2				○
○		老年看護学 実習Ⅱ	1. 老年期にある対象とその家族が理解できる 2. 老年期にある対象の疾患と生活障害が理解できる 3. 対象の生活障害を改善するための援助の方法を学ぶ 4. 退院後の生活障害を予測し、社会資源の活用を考えられる 5. 高齢者の生命と人格を尊重する態度を身につける	3 年 次	90	2				○
○		小児看護学 概論	子どもとその家族の健康および発達上の問題を総合的に捉え、看護を実践するために必要な基礎的知識・技能・態度を習得する 1. ライフサイクルにおける子ども期の特徴について理解ができる	1 年 次 後 期	30	1	○			

			<p>2. 子どもの身体的、精神的、社会的な成長発達について形態機能と生活行動の観点から学ぶ</p> <p>3. 子どもの健康、発達段階や発達課題について環境と関連させて学ぶ</p> <p>4. 子どもの健康増進、成長発達の促進に関する看護援助の方法を学ぶ</p> <p>5. 子どもの人権に関わる倫理的問題を理解し、看護職者の役割について理解する</p> <p>6. 子どもとその家族に必要な保健・医療・福祉などの連携システム、および小児看護の責務と協働関係について学ぶ</p>							
○		小児看護学方法論Ⅰ	<p>子どもに特有な健康障害について学び、身体的アセスメントができる基礎的知識を理解する</p> <p>1. 子どもに特有な健康障害とその治療法について理解する</p> <p>2. 子どもを対象とする保健施策（予防接種など）について理解する</p>	2 年 次 前 期	30	1	○			
○		小児看護学方法論Ⅱ	<p>1. 健康障害をもつ子どもと家族に必要な看護を学ぶ</p> <p>2. 小児に特有な看護技術について学ぶ</p>	2 年 次 通 年	30	1	○			
○		小児看護学方法論Ⅲ	<p>小児の健康上の問題解決方法について学ぶ</p> <p>1. 小児の看護過程の特徴が理解できる</p> <p>2. 各発達段階別のアセスメントができる</p> <p>3. 事例を用いて小児看護の看護過程の展開を理解する</p>	2 年 次 後 期	15	1	△	○		
○		小児看護学実習Ⅰ	<p>1. 子どもの成長発達に応じた保育のあり方を学ぶ事ができる</p> <p>2. 生活の中での遊びの占める位置の大きさを知り援助の方法を知る事ができる</p> <p>3. 子どもの安全を守るための援助のついて学ぶ事ができる</p> <p>4. 保育者としての働きかけを通して保育者の役割を学ぶ事ができる</p>	2 年 次 後 期	45	1			○	
○		小児看護学実習Ⅱ	<p>1. 健康障害を持つ小児の問題を成長発達と関連付けて理解できる</p> <p>2. 小児の疾病の特性及び症状の現れ方を知り、健康障害に応じた看護が理解できる</p> <p>3. 小児の発達段階に応じた日常生活の援助が実施できる</p> <p>4. 小児を取り巻く家族の援助について考えることができる</p>	3 年 次	45	1			○	
○		母性看護学概論	<p>女性のライフサイクル各期における特性、心理・社会的背景と母性保健活動の意義を理解する</p> <p>1. 母性看護の意義と役割について学ぶ</p> <p>2. 性の発達、性行動を理解し人間の性と</p>	1 年 次 後 期	30	1	○			

			生殖について学ぶ 3. 母性看護の動向から今後の課題を考える 4. 女性をとりまく社会の現状から母性看護の意義を考える							
○		母性看護学 方法論Ⅰ	1. 新しい家族の誕生期にある人々が、健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的知識を学ぶ 2. 適切な看護を行なうための知識として、周産期の生理と異常に関する内容を学ぶ	2 年 次 前 期	30	1	○			
○		母性看護学 方法論Ⅱ	1. 妊・産・褥婦および新生児期にある対象の順調な経過を維持・促進するための看護の方法および健やかに親子関係が確立するための方法を学ぶ 2. 母性看護における異常の早期発見と予防について理解する	2 年 次 通 年	30	1	○	△		
○		母性看護学 方法論Ⅲ	異常経過をたどる妊産婦の看護と正常分娩経過をたどる褥婦の事例展開方法を学習する 1. 事例を用いて母性看護の展開の基礎を学ぶ 2. 母性看護における異常の早期発見と予防について学ぶ	2 年 次 後 期	15	1	△	○		
○		母性看護学 実習	1. 妊・産・褥婦および新生児の理解を深める 2. 妊娠・分娩・産褥各期における心身の変化を理解する 3. 新生児の看護を通して新生児の生理を理解する 4. 妊娠・分娩・産褥各期における親子関係について理解を深める 5. 妊・産・褥婦と新生児に対する看護技術を習得する 6. 妊・産・褥婦および家族への適切な保健指導を学ぶ 7. 出産に立会い、産婦の苦痛の緩和や援助を通して生命誕生の神秘・生命の大切さについて考える	3 年 次	90	2				○
○		在宅看護概 論	1. 在宅看護の特徴と対象について理解する 2. 在宅看護における保健・医療・福祉の連携を知り、看護の果たす役割を理解する 3. ケアマネジメントと社会資源について理解する	1 年 次 後 期	30	1	○			
○		在宅看護論 方法論Ⅰ	在宅看護の方法と必要な基礎知識、技術、態度を習得する 1. 在宅看護の方法と必要な基礎知識、技術、態度を身につけることができる 2. 在宅における日常援助技術の工夫について理解する	2 年 次 前 期	15	1	○	△		

				3. 家族への支援方法と社会資源の活用について理解する								
○			在宅看護論 方法論Ⅱ	1. 在宅における医療管理を必要とする人とその看護を理解する 2. 在宅における医療処置技術を習得する	2 年 次 前 期	30	1	○				
○			在宅看護論 方法論Ⅲ	在宅における看護過程の展開を学ぶ 1. 在宅における看護過程の特徴を理解することができる 2. 療養者の健康状況や生活状況、介護状況から家族の生活がイメージできる 3. 個々にあった社会資源の活用について理解できる 4. 関連職種との連携の視点を理解できる	2 年 次 後 期	15	1	△	○			
○			在宅看護論 実習	1. 在宅看護の特徴を理解することができる。 2. 在宅で療養している人とその家族を理解することができる。 3. 在宅で療養している人とその家族の療養上の問題を明確にし、助言の基に看護の方向性が考えられる。 4. 在宅で療養している人とその家族に必要な看護方法が考えられる。 5. 在宅看護における保健、医療、福祉の連携を知り、看護の果たす役割を考えることができる。 6. 在宅看護における社会資源活用の実際について理解することができる。 7. 専門職業人としての態度を学ぶ	3 年 次	90	2					○
○			医療安全と 看護管理・倫理	1. 医療安全の基礎的知識を理解し、安全な医療を提供することの意義と援助技術を学ぶ 2. チーム医療及び他職種との協働の中で、看護をマネジメントするための基礎知識を学ぶ 3. 事例を通して、臨床実践における看護倫理の重要性を考え、専門職者としての倫理的感受性を高める	2 年 次 通 年	45	2	○	△			
○			災害看護と 国際看護	1. 災害時において人々の生命や健康生活を支える看護の役割を学ぶ 2. 国を越えたグローバルな視点から人々の健康増進に関与する看護の役割を学ぶ	2 年 次 後 期	15	1	○				
○			臨床看護の 実際	臨床実践に近い形で実際の看護業務遂行を疑似体験し、複数課題での統合的な判断・対応を習得する 1. 既習の知識を統合させて、個々の患者	3 年 次 後	15	1	△	○			

			<p>の病態や回復過程を理解する</p> <p>2. 患者の状況を正しく判断し、優先度を考えて看護技術を実践する</p> <p>3. 看護技術を安全に提供する能力を高め、自己の看護実践を評価する</p>	期						
○		卒業研究	<p>ケーススタディの意義やまとめ方の基本や研究的態度を学ぶ</p> <p>1. ケーススタディの意義を理解し、研究的にまとめる学習の動機付けとすることができる</p> <p>2. ケーススタディの構成やまとめ方の基本を理解し、研究的態度で取り組むことができる</p> <p>3. ケーススタディの発表会を通して自己の看護観を明確にできる</p>	3 年 次 通 年	15	1	△	○		
○		統合実習	<p>1. 病棟における看護管理の実際を学ぶ</p> <p>2. チームアプローチを通してリーダーシップ、メンバーシップを学ぶ</p> <p>3. 複数患者への看護を通して適切な看護マネジメントを学ぶ</p> <p>4. 夜間の患者の状況を知り患者を総合的に理解できる</p> <p>5. 病棟チームでの看護実践を通して専門職としての意識を高める</p>	3 年 次 後 期	90	2			○	
合計				84 科目	3060 単位時間 (103 単位)					